国際会議～見どころ・聞きどころ8

国際会議で開催される協賛シンポジウム

組織委員会委員長　中村　重信

今回の会議では、企業団体などが協賛するシンポジウムがたくさんあります。いずれも非常に興味深く、日ごろはなかなか聞くことのできない貴重な講演です。ぜひご参加ください。なお、一部、事前申し込みが必要なものがありますので、詳細は国際会議公式サイトのシンポジウムのページをご覧ください。

［公式サイト］www.adi2017.org/ja ⇒Menu⇒会議前シンポジウム・シンポジウム

日	時間帯	場　所	テ　ー　マ
26日・水	9：00～13：00	ルームC1	2025年に向けて：アルツハイマー病における革新のためのエコシステムの構築
	9：00～12：00	ルームC2	認知症に関する認識と教育のための効果的な写真や映像の使用に関して
	13：30～17：00	アネックスホール	認知症に優しい世界を作る
27日・木	7：30～ 8：45	アネックスホール1	認知症薬の開発における進化：コリン作動系
		アネックスホール2	学際的見解：認知症予防と介護の総合的アプローチを研究する若い研究者達
	13：00～14：00	アネックスホール1	認知症の人の身近な介護者を支援するためのｅ-ヘルスに関する取り組み
		アネックスホール2	2025年への道のり：ヘルスケア制度の準備状況に関する世界規模の話し合い
	17：45～18：45	アネックスホール1	アルツハイマー病の抑止：技術面での世界的な機会
		ルームA	研究の出版：編集者が求めているものは？
		ルームD	アジア太平洋地域の認知症の人の健康と福祉
28日・金	7：30～ 8：30	アネックスホール1	アルツハイマー病の最新状況：困難な早期診断と患者体験についての解説
		アネックスホール2	国際的認知症政策
	12：45～13：45	アネックスホール1	認知症とともに生きる社会の創造
		アネックスホール2	肌の健康：認知症高齢者のための質、費用、ケアを改善するための新しい領域
	17：45～18：45	アネックスホール1	京都＜臨床美術＞をすすめる会　認知症予防の戦略としての臨床美術治療
		アネックスホール2	アルツハイマー病治療にタウ蛋白のもつれに注目
29日・土	7：30～ 8：30	ルームB1	国際アルツハイマー病協会からの報告
	12：45～13：45	アネックスホール1	認知症と非感染症疾患共存症に関する保健制度の強化
		アネックスホール2	科学に裏づけられた脳トレーニング：ブレインHQ

※国際会議公式サイトでは、アネックスホールは別館と表記される場合があります。

2017●APRIL

CONTENTS

●国際会議～見どころ・聞きどころ⑧ ……2
●ようこそ、国際会議へ！国立京都国際会館のご案内 ……3
●新連載 社会が健康を決める？ 健康なまちづくりで思うこと① 早川岳人 ……4-5
●大病を経て、分かったこと 早川一光 ……4-5
●理事会報告 ……6
●いきいき「家族の会」―まちでもむらでも 沖縄県／奈良県／群馬県／埼玉県 ……7
●本人登場 私らしく仲間とともに (141) 富山県支部　芦野れい子さん ……8
●“つどい”は知恵の宝庫 (120) 本部電話相談員編 レビー小体型認知症とはどんな病気ですか？ ……9
●国際会議プログラム AAJラウンジのご案内 ……10
●治験のお知らせ ……10
●認知症と「運転免許証」 鎌田晴之 ……11
●事務局ほっとコーナー／業務日誌 ……11
●会員さんからのお便り ……12-13
●支部だよりにみる介護体験 (154) 富山県支部　上島靖子さん ……14
●髙見代表の一筆啓上 (292) ……15
●編集委員の窓 ……15
●各地のつどい ……20

「防災講演会」を開く

沖縄県支部

沖縄県支部・宮古地区会では、「防災講演会」を開催した。北中城村防災コーディネーターで支部代表の鈴木伸章さんが東日本大震災の時、福島県の実家に帰っていて震災に遭遇したとのこと。この時の経験を会員さんや自治体の皆さんに伝え、日ごろからいざという時のために備えることの大切さを説いている。

普段見えている消火器も、とっさの時は見えなくなるので普段から非常口や消火器の場所を何度も確認する癖をつけること。生存の３原則は水、体の保温、生きるための精神力、などとともに、我が家を防災の点からチェックすることの必要も説いている。

「つどい」の和やかさ

奈良県支部

普段は男性ばかりのつどいに、今回は世話人の藏野美枝子さんが紅一点で参加し、驚いたのはその和やかさだった。

「妻の病気による介護だけでなく、慣れない家事に追われる日々は孤独とジレンマとの戦いではないか」と思った。

参加者から「51歳の時、妻は自分から物忘れ外来に行き、昨年、排便困難で具合が悪かったが最近改善されてきた」「まだ初期と思われるが、強く言うとそれ以上に汚い言葉が返ってくる。自分がおかしくなり、病気になりそう」。他にも自分に攻撃的なことなど辛い現状を忌憚なく話し、それを聞き共有する…このつながりがまさに「つどい」の役割と感じたそうだ。

いきいき「家族の会」まちでもむらでも

全国の「家族の会」支部報から活動を紹介!!

編集委員／小宮俊昭

広報誌に紹介される

群馬県支部

社会福祉法人陽光会から発行されている季刊（年４回）の広報誌『陽光』に、「家族の会」が紹介された。陽光会は特別養護老人ホームなどの老人福祉施設を幅広く運営している法人であり、また提携関係にある老年病研究所付属病院は、群馬県認知症疾患医療センターの役割を担っている。

『陽光』は毎月2,000部以上発行しているが、この『陽光』で「家族の会」の特集をしたいと連絡があった。支部として会の存在を知っていただくことが最大の課題と喜んで、2017冬号に掲載していただいた。病院に行かれたり、どこかで『陽光』を目にしたら「ぜひお手にとってご覧ください」と支部で声かけをしている。

「三郷の小さなつどい」10周年を迎える

埼玉県支部

10年前、「クリニックふれあい早稲田」の大場敏明先生が、「介護をしている家族を支えないと、よい介護はできない」と考えて「つどい」を始めた。式典で「診察室では話されない家族の本音が聞ける大切な場所である」と話された。

花俣ふみ代支部代表から、「つどい、電話相談、会報の３つの活動で介護する家族に寄り添ってきたが、福祉の政策が切り下げられてきて、利用者の立場から声を上げないといけない状況です」と話があった。介護家族の松井美津子さんは「『つどい』があったお陰で、お母さんも喜んで行く施設に出会えた」と話され、当日は70名近い参加者で会場がいっぱいになった。

本人登場
私らしく仲間とともに
No.141

カフェの化粧教室でモデルに

芦野れい子さん
68歳・富山県支部

富山県支部の世話人で、全国本人交流会の実行委員長をしています。支部のカフェではスタッフとしても参加して、毎日楽しんでいます。
（夫の芦野祐嗣さん）

変化に気づいたころ

東京で暮らす娘に、母親である妻から留守電メッセージがあったが、電話をかけると、「そんな電話していない」ということが２週続けてありました。そんなことはあるまいと思いながら、妻に診察を薦めたところ、「分かった」とあっさり、何の抵抗もなく私と一緒に病院の門を潜りました。そして服薬が始まったのが、2012年10月でした。

「家族の会」との出会い

2014年５月、私は脳梗塞で２週間の緊急入院をよぎなくされました。その間、妻の介護は東京の娘と仙台の息子に頼みましたが、娘、息子を認識できなくなるらしく、「変な人が居る」と隣家に妻は駆け込んだそうです。病院で聞かされた私のショックは尋常ではなく、大きな魔物に取り付かれた気持ちで退院しました。

何とかしなければ、との思いでインターネットで探し始めました。幸い、友人が富山県支部に知人がいると言って私の背中を押してくれ、2014年７月に入会しました。少しずつ、私の心の中の魔物は小さくなりました。

普段の生活

現在は週１回、デイサービスを利用しています。それ以外はいつも一緒ですが、その分、私が眉間に皺を寄せる回数も多いのでは、と時々反省しています。ウォーキングはほぼ毎日行っていて、60～80分、５～７km、近くの公園に出向いています。私の誘いにまだ一度の拒否もなく続いています。食事の準備をしていると、「私もできるようになりたいから見させて」と言って横に立ちます。後片付け、食器の洗いは「私やるよ」と言って、夫の私を制します。また月に１～２回、県中央植物園に出かけ、季節の花や木々を見て楽しんでいます。

◀富山県支部のカフェでのれい子さん（右）と祐嗣さん

全国の本人さんにメッセージ

みんなで楽しみたいので「今年も全国本人交流会にきてください」。「国際会議では、４月29日に発表します。ぜひ参加してください」と話しています。

情報コーナー

本人交流の場
（詳細は各支部まで）

宮城◉５月18日㈭10:30～15:00/翼のつどい→泉区南光台市民センター
埼玉◉５月24日㈬11:00～13:00/若年のつどい大宮→大砂土ふれあいの里
神奈川◉５月７日㈰11:00～15:00/若年のつどい→ほっとぽっと
富山◉５月13日㈯13:30～15:30/てるてるぼうずの会→サンフォルテ
岐阜◉５月28日㈰11:00～14:00/若年のつどい→岐阜市・アルト介護センター長良
静岡◉５月９日㈫10:00～13:00/若年のつどい→富士市フィランセ西館
愛知◉５月13日㈯13:30～16:00/若年本人・家族「元気かい」→東海市しあわせ村
三重◉５月28日㈰13:30～15:30/若年のつどい→四日市総合会館
鳥取◉５月24日㈬11:00～15:00/中部にっこりの会→かふぇとまと
広島◉５月20日㈯11:00～15:30/陽溜まりの会北部→三次市コミュニティーセンター
長崎◉５月20日㈯13:30～15:30/若年のつどい→小鳥居諫早病院デイケア室

会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188
Eメール office@alzheimer.or.jp

相談する人がいなくて…

●東京都　Aさん　50歳代　女性

80歳を過ぎた母は、以前から物忘れがありましたが、昨年末ころから急に記憶力がなくなり、食事もあまり作らなくなりました。先日かかりつけの医師に、「一度ＭＲＩの検査をしてみたら」と言われました。

介護保険を申請して脳トレなどのようなところに通わせた方がいいのか、今のまま見守っていればいいのか迷います。今後さらに迷ったり、困ったりすることもあるだろうと思いますが、私は一人っ子で他に相談する人もいないので、「家族の会」に入会したいと思います。

介護が厳しくなってきた

●千葉県　Bさん　70歳代　女性

レビー小体型認知症と２年ほど前に診断された夫に徘徊が始まり、意思疎通も難しくなりました。拒否もあり、怒りっぽくもなっています。私は母の介護で腰を痛め、神経痛、胃かいよう、精神不安定になり、身体が辛く感じています。介護が厳しくなり、とても困っています。

トラブルや怪我が絶えません

●静岡県　Cさん　60歳代　女性

ケアマネ時代に社会資源としての情報を得るために入会していたことがありますが、多忙のため退会。その後、父の認知症が進んでいることに気がつき、ケアマネを退職。自宅に引き取って一緒に暮らし始めましたが、本人は認知症の自覚がなく、自由に動き、周囲に迷惑をかけ、トラブルや、怪我が絶えません。

父も私も共に穏やかに楽しく過ごしていきたいと願っているのですが、なかなかままなりません。介護方法、対応方法のみならず、私自身の心のあり方を学ばねばと思っています。

オレンジカフェを始めます

●埼玉県　Dさん　50歳代　女性

以前、父親の介護をしておりました。当時は介護保険もなく、「痴呆症」と言われておりました。認知症の知識もなく、その頃の対応を思うと強い後悔の気持ちが残ります。

現在は、在宅で92歳の母親（要介護４）の介護をしながら、介護福祉士・認知症ケア専門士の資格を得て、グループホームで働いております。そんな中でオレンジカフェの実施・運営に興味を持ち、今年度、職場であるグループホームにて開催を進める運びとなりました。「家族の会」とのつながりを持ち、情報の収集など連携ができたらと思います。

二人を介護中

●兵庫県　Eさん　女性

93歳の実母は、17年程前に前頭側頭型認知症と診断され、要介護４です。介護保険のサービスを利用しながら、自宅で介護しています。

93歳の義母は、要介護３でサービス付き高齢者住宅に入居して、デイサービスを利用しています。一つの家で一緒に介護できないので、近くに入居してもらい、ほぼ毎日、様子を見に行っています。認知症の検査を受けていませんが、かなり混乱したり、幻覚が見えたり、意思疎通も困難になっています。

「一筆啓上」お疲れさまでした

●京都府　Fさん　80歳代　男性

2002年に「家族の会」に入会。当時、妻を介護していた私にとって、ぽ～れぽ～れはスミからスミまで目を通して読むべき、いわば必読文献のはずでした。ところが、元来読むことの苦手な私は、選り好みして拾い読みをする程度の読者でした。その中で、一番に読んでいたのが、「一筆啓上」でした。そこには、介護される人、介護する人への、これ以上はないほどの温かい気持ちが溢れていました。

私は今、この世を旅立つ日に備えて、新聞や同人誌に投稿したもの、掲載されたものなどをまとめた遺稿集作りに取り組んでいます。その中には、髙見さんへのインタビュー「呆けても心は生きている」を感動しながら、繰り返し読んだ時の感想もあります。

現役を退かれるにあたっての毎日新聞の記事の締めくくり、「退任後も当事者と家族を応援し続けるつもりだ」。いかにも髙見さんの気持ちをピタッとあらわしていると思いました。

こんな生活が何年続くのか

●愛知県　Gさん　50歳代　女性

87歳、要介護３の実母の認知症がどんどん進んでいき、どうしたらいいんだろうと思っています。娘が話を聞いてくれたり、手伝ってくれるので、何とかやっています。こんな生活が何年続くのだろうかと思うと、落ち込む時があります。

自宅で介護できなくなれば…

●愛媛県　Hさん　60歳代　女性

79歳の夫は、アルツハイマー型認知症で要介護３です。先日、初めて家を出て行きました。幸いすぐに見つけることができましたが、これから先、自宅で介護できにくい状態になった時、入所できる施設やその方法など、また経済的なことなど不安が大きく、いろいろな情報がほしいと思っています。

介護ロス

●岡山県　Iさん　30歳代　女性

92歳の祖母は昨年８月に他界しました。介護が終わり、介護ロスのようになっています。認知症カフェに通ったり、つどいに参加させていただく中で、自分の経験などを見つめなおしたいと思っています。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。

支部だよりにみる

介護体験

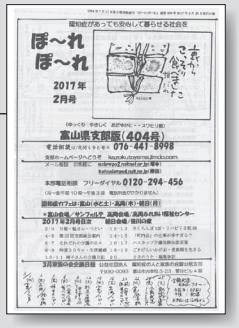
154

北から南から

今回は 富山県

母の介護

富山県支部　上島　靖子　75歳


ぽ～れぽ～れ
2017年2月号
富山県支部版（404号）
076-441-8998
0120-294-456

富山県支部報
（2017年2月号）

100歳の祝いの４日後からショートステイ。施設から「喜美子さん、背中かゆがって、見たらブツブツあるけど、皮膚科に行ってくるけ」とのこと。私は「今、行っておられんわぁ」と断った。実は家で寒いだろうと部屋も布団の中も温めたのだ、母は寝てばかりいたから、もしかしたら「あせも」かも…。施設からはそれっきり連絡がなく、私からも経過を聞かなかった。自分ながら無責任だ。

先月お世話になっていた施設から「１ヵ月過ぎると空きが出るかもしれません、入所可能だと思うけどどうされますか」との電話。私にしたら、在宅介護で今までデイサービスとショートステイの組み合わせでやっているから、『このままでも…』と迷う。でも、折角声をかけて下さったのに…との思いもあり「出来たらよろしくお願いします」と返事をした。

ショートステイから連絡があり「明日、退所の日だけど、皮膚科へ行ってくるけ、あのブツブツ、人にうつるかも！もしそうだったら、どこの施設も受けんよ！治さんにゃ、とにかく病院！」。『ほっておけない！』さすがの私も動転した。翌日、要介護３の母を迎えに施設へ。病院に行き、医師に開口一番「先生、人にうつりますか！」「大丈夫、うつりません！」ほっと一息した。

大量のうんこ騒動にうんざり…

母は一人で食べられる。やれやれ…夕食を済ませ、入れ歯も洗い、すべてよし！さぁお風呂に入って寝よう！と思い、母の部屋に行く。私も同室。部屋に入ると嫌な臭い…オムツの中を見ると…大量のうんこ！今からこの始末、がっかり、うんざり…片づけぬわけにはいかず、お湯を汲んで汚れた部分を拭き一段落。部屋は臭く冬とはいえ窓を開け、空気を入れ替え、消臭をして、何とか終わり、やっと入浴する。

強情な母が手を合わせて「ありがとう！」

翌日、デイサービス。朝一番に紙オムツ替え。あれっ夕べの続きでどっさりとうんこが…またお湯をたくさん汲んで…やっと終わり。母を見ると申し訳なさそうな顔で両手を合わせ、私に向かって「ありがとう！」と言っている。一瞬びっくりした。若くて元気だった頃は「あんたの世話などならんわ！」と啖呵を切った母である。これがあのわがままな母だろうか。

私は父も大嫌いだった。婿養子だった夫に切ない思いをさせた両親だった。噛み合わぬ悲しい親子関係。あんな言葉や行動は絶対にしてはならぬ！と心に鍵をかけてきた。おかげ様で息子夫婦との同居は、笑いながら収まっている。嫁の優しさだろう。ありがたい事です。

そんな強情な母が今、私に手を合わせて、『ありがとう！』と言っている。思い起こせば、腹の立つ事ばかりだが、受け入れ、割り切り、水に流そうと心を切り替えなければ前に進めない。自分が惨めになる。自分にできない事は周りの人に助けを求め、親と私の不徳を夫に詫びよう！と心に誓った。でも、夫が亡くなって、どこを向いても切なく、虚しく、寂しい日々です。後悔ばかり、涙がでてきます。

※筆者は夫を看取り、実母を介護しています。